

## 第Ⅲ部 文化遺産デザイン研修報告

## 「2015 文化遺産デザイン研修」の記録

上原 駿一

2015年3月14日、京都府立総合資料館と共同で開催した「京都の歴史を歩こう！2015 上賀茂編」が行われた。この遠足は地域住民に、地域の現在と過去のつながりを歩きながら再発見してもらうことをねらいとしており、ガイド役の学生は達成するため様々な取り組みをしてきた。以下、時系列に沿って紹介していきたい。

## 【2014年5月～8月】

2014年5月29日の昼休み、打ち合わせが始まった。ここで、文化遺産デザイン研修の対象地域を上賀茂とし、2015年3月14日の遠足をゴールにすることが決定した。その後、7月3日に仮の班分けを行い、8月7日には遠足のルートや、掘り下げて話すことについて意見を出し合った。

ここで、各自調べた結果を踏まえて、班を組み直すべきという意見が出たため、班再編成を行い担当区域や地域横断テーマが決定した。また、次のような意見も出された。それは実際に本番を想定しながら、全員が立ち止まって説明を聞くポイントを設定する事や、ポイントを移動する間に各メンバーが各参加者に対して個別に説明をする内容の調整をすることである。これは後の行程にも関わる指摘で、本番までにも強調されていく。このため、各自の担当区域の情報をもう一度掘り下げ、夏休み明けの中間発表に活かすことを確認して、前期の活動を終えた。

## 【2014年10月～12月】

中間報告は11月10日に行われた。この時の発表テーマは東地区「上賀茂と軍隊」「鞍馬街道興亡史」、中地区「大田神社・穂根東公園・町名・賀茂季鷹」、西地区「社家町・上賀茂の祭神」、地域横断「すぐきができるまで」である。

東地区については、鞍馬街道が上賀茂などの洛北と洛中を物流や参詣の拠点となることで結んでいたことや、上賀茂に陸軍部隊を誘致する計画があったことの報告があった。特にこの二点を軸にして、より深い分析を行うと充実した説明ができるという意見が出た。さらに当時の兵営候補地の正確な確定が課題であるため、発表者が総合資料館職員に関係史料のご教示をお願いすることも確認された。

中地区でメインとなったのは穂根東公園とその町名である。穂根東公園は注目する点が二点ある。一点はもともと「骨塚」と書かれていたこと、もう一点は「すぐき発祥の碑」が建っているということだ。「骨塚」表記は町名分析にもつながるためこの地区の歴史の名残が説明でき、碑は地域横断テーマとも関係する。町名については現代の地図と前近代の地図を照らし合わせ、

そこで景観がどう変化しているかを正確に把握しておくべきという意見が出された。

西地区は社家町と上賀茂神社が対象であるが、明神川を日常で使用しているため、上賀茂と水というテーマは重要であるという意見が出た。また、神事とは切り離せないため、競馬などの儀礼・祭礼や神山との関係についても説明が必要であるとの指摘もあった。

地域横断テーマは上賀茂特産の「すぐき」である。情報は文献でリサーチしていたが、漬け込み工程を実際に見ておくことが必要であると考え、聞き取りなどの現地調査を行うことを決めた。



写真1 資料館での絵図閲覧



写真2 すぐきの漬け込み作業



写真3 中間報告の様子

以上の課題をふまえ、11月28日に二手に分かれて見学した。一方は京都府立総合資料館で上賀茂村や社家町の絵図を閲覧し、もう一方は地元農家にて作業工程を見学した。総合資料館では、上賀茂地区を考える上でキーワードとなる水路が、大宮村から京都御所方面に流れる様子を絵図で確認した。社家町や上賀茂神社、当時の町並みがどう変わってきたかを視覚的に捉えることができ、現在と過去のつながりを体感する良い機会になった。一方、すぐき見学者は、書籍だけでは分からない漬け込みの様子や、作業される方への聞き込みを通じて地域の中のすぐきについて身をもって学んだ。そして、この経験を遠足本番の説明で活かすことを改めて目標とした。

また、12月19日には住民の藤井豊一郎氏宅にて取材させていただいた。藤井氏は「上賀茂ジュニア検定」という企画に関わられた、地域の歴史に詳しい方であり、これまでの調査では分からなかった新たな発見をさせていただいた。大田神社近辺の人形の祠や賀茂十六流、少年時代の明神川のお話など、身近に地域と接してこられた方だからこそその貴重なご意見を聴かせていただき、ここでのお話を遠足での説明に反映していくことにした。

そしてこれらの情報を基に、12月25日のミーティングで暫定的なルートを決め、年明けのプレ・プレ遠足で参加者に配布するパンフレットの原稿を提出することを確認して、年内の活動を終了した。